



茂木健一郎（もぎ・けんいちろう）

脳科学者。ソニーコンピュータサイエンス研究所シニアリサーチャー、東京工業大学大学院連携教授（脳科学、認知科学）1962年10月20日東京生まれ。東京大学理学部、法学部卒業後、東京大学大学院理学系研究科物理学専攻課程修了。理学博士。

——政権交代の時に信認状を与えたもののそれがうまくいっていないと。
茂木 そう感じます。民主党の「日本を変える」という志は良かったのですが、その方法論が十分に検討されていないように思えます。われわれ脳科学者の立場では、人間

には自由意思はないと考えます。心を入れ替えて明日から頑張ろうとも事態が劇的に変わることはありえない。きちんとそれを裏付ける技術やシステム、組織がなければできないわけです。民主党に対する期待が裏切られたという思いは、民主党の志というより、改革を実行するための人員や予算、シンクタンクといったガバナンス機構が整っていないことが問題であり、その実質を考慮すべき時期ではないでしょうか。

民主党のプリンシプルとは

——自民党政治が60年以上続き、このままでは日本はもう立ち行かない。だから政権を民主党に託さなければいけない。その志は国民も民主党議員も共通していました。ところがいざ政権交代してみると理念と政策的な方法論でさまざまな潮流が存在する難しさを感じます。

茂木 確かに、白洲次郎さんの言うところの「プリンシプル」（原理）がなんだったのか、われわれ一般国民から見ると分かりにくくなっています。前回の総選挙では多くの人は、霞が関など役所の改革を期待したと思います。人というよりシステムが悪いと。予算の立て方、執行の仕方等を含め、そこを民主党に一番変えてほしかったわけですし、変えていた方がいいです。大阪の橋下徹市長は、役所の仕事自体に、行政機構に大胆に改革のメスを入れるという手法に多くの国民が共感を

示しているからこそ支持されているのだと思います。国民が期待するのは小手先ではない政治改革・行政改革です。

——先ほどのグローバル化とインターネットと2つの黒船襲来という視点から考えたとき、今の民主党に欠けているものは何ですか。

茂木 これは民主党だけでなく日本のありとあらゆる組織に言えることですが、これだけ民意を拾いやすい時代であるにもかかわらず、その努力をしていないこと。民主党が組織のガバナンスの透明性と

をこのころのなかに再現させている。ノスタルジアではない。機能不全の古い権威はすでに崩れ落ちつつある。私たちが取り組んでいるのは、困難を抱えながらも新しい日本を建設するための長期にわたる過渡期のプロセスなのである。諦めてはならない。政権交代の原点にたえず立ち戻りながら、斥候兵のように視線を低く、地道に、一歩づつ、現実を変えて行くことだ。謙虚な気持ちで「外部の声」に耳を澄ませよう。反転攻勢の一助のため、ここに小さな「窓」を開く。（有田芳生）

窓

民主党への建設的提言 各界識者に聞く第1回 脳科学者 茂木健一郎氏 民主党はチャレンジャーであれ

聞き手 有田芳生 参院議員

——このたびの原発事故をきっかけに国民にとって科学者が非常に身近になりました。その社会的責任は昔から話題、議論にもなってきましたが、科学者の一人である茂木さんの目から今の世界と日本の政治はどう映っているのか。そのなかで民主党は何をなすべきか、批判的提言をふ

くめてお聞かせください。
茂木 世界情勢を肌で感じるなか、やはり危機感があります。シンガポールの議員と話をした際、企業の経営者と話をしているような、国家の経営は自分たちが担っているんだという印象を受けました。僕は今、日本にはグローバル化とインターネットという

二つの黒船が襲来していると思っています。そこでは日本の過去の成功体験の方法論は役に立たなくなり、2009年の総選挙では、世界情勢が変わるなか日本は変わらな

いわけではない、新しい日本をつくる原動力になってほしいと、われわれは民主党にマニフェスト（権限）を渡したわけ

です。それに対して民主党はどれくらい心えてくれているのか。そこを有権者は見ていると思います。

——政権交代の時に信認状を与えたもののそれがうまくいっていないと。
茂木 そう感じます。民主党の「日本を変える」という志は良かったのですが、その方法論が十分に検討されていないように思えます。われわれ脳科学者の立場では、人間

ネットへの対応を率先して上げること、組織改革の範を示せたいと思います。

——政治家の言葉はどう見えますか。

茂木 官僚的になっているところはあると思います。政権党になり言動に注意されるのはいいですが、民衆が求めているのは血の通った、その人の体温が感じられる言葉です。それがだんだん感じられなくなっていることも、民主党の支持率低下の原因の一つかも知れません。

もし今後何か改革をしようとするなら国民の支持が必要であり、それをどう得るかを真剣に考える必要があります。世論調査自体に議論はあるにしても、それを無視する政治家、政党はありません。民主党はどうすれば次の選挙で勝てるかだけを考えればいいとも言えるかもしれませんが、それが民意を反映することです。



ことです。

感想戦と未来へのビジョン

——勝つことを考えたら政策も理念も変えざるを得ない……。

茂木 決してポピュリズムということではありません。人々はバラマキや人気取り政策は求めていませんから。

熱い思いと的確な現状分析と真摯（しんし）な反省。民主党は一度反省しないと権者は納得しません。せっかく前回の総選挙で付託されたのに十分できませんでしたと、それはこういう理由だと。将棋で、素人将棋はどんな指してしまいますが、実は将棋が強い一番のポイントは感想戦です。つまり、対局後に局面を振り返り、着手の善悪やその局面における最善手などを検討することです。民主党も政権交代以来の



日々を振り返り、何が良かったのかという真摯なる反省をしなければいけないと思います。それに基づき未来へのビジョンを打ち立て、国民に示せば支持率は回復すると思います。今はそこをうやむやにしているように見えます。

日本人に今一番必要なのは希望・夢であり、こういう方向で国を変えていこうと必ずいい国になりますという、アクションプランを示してほしいと思います。

——マニフェストの中間検証はありますが、国民に届いていないのが現状です。基礎的な組織論も課題であり、地方議員や党員と共同しながら地域に根付いていくことが必要です。

茂木 パブリシティ、PRをしっかりとやっていくべきだと思います。できなかったこと、努力すべきところはあっても実現できたことは事実としてしっかりと伝えるべきです。

——当たり前のことですが、

政権交代の成果がある。例えば2年間で医療・福祉の雇用は67万人増え、授業料の実質無償化によって経済的理由で中退せざるをえなかった高校生も5分の1に減りました。

茂木 野田さんが大変なことも、消費増税が必要なこと、多くの人が理解していません。問題は、何が民主党の核となる価値なのかが見えにくくなっていることが危機的です。次の選挙というより、今まさに実行しようとしている政策に対してどう判断すべきかがわからなくなっています。

根拠なき自信と裏付ける努力

——しっかり反省すべきは反省し、もう一度政権交代の熱気を体の中に取り戻して、一から真摯（しんし）に頑張ることが必要だと思います。

茂木 プライドがないところに成長はないと思います。民主党は決してプライドを失ってはいけません。プライドとは、自分たちが何物であるかの自覚ですから、そこでぶれるとますます支持を失うことになりかねません。

僕はよく「根拠のない自信とそれを裏付ける努力」と言うのですが、「民主党は次の

総選挙で政権を維持をできる」という根拠のない自信とそれを裏付ける努力。これさえあればまた政権を担うことは可能だと思いますし、またそうでなければ日本の民主主義は救われません。二大政党制の善し悪しは別にして、政権交代が行われる地盤を根付かせないとこの国の民主主義は成熟しないと思います。

——日本が抱える危機を克服しなければいけない。それを実現していくのが政権交代の仕事です。

茂木 そう思います。大学や霞が関など、明治以来日本の発展を担ってきたエスタブリッシュメント（確立した政治勢力）の賞味期限が切れたと感じます。これまでのように子どもたちが受験をして

いい大学に行くことを目指すと、そこで培われる能力はいま世界で必要とされている能力と全く違います。

本来日本のエスタブリッシュメントの人たちは猛反省しなければいけない時代であり、それゆえチャレンジャーがどうしても必要な時代なわけです。われわれは民主党はチャレンジャーだと認識していたのですが、政権をとって1年2年が経過するなにかのまにかエスタブリッシュメントのような顔を始めていて、そこが一番の不満なのではないですか。

ですから、守りにはいいのはダメ。民主党にはチャレンジャーでい続けてほしいと思います。



スティープ・ジョブズとおそろいだというセーター姿の茂木氏。

「国際社会で今必要なのはジョブズのような人材。彼の偉大さは心の整え方を知っていたこと。心を整えて現実のなかでいかに自分たちの理想を目指すか。ジョブズは若い時に日本の禅僧と出会い、大きな影響を受けたといいます。民主党に今必要なもの心の整え方。世論に左右されず、ぶれずに自分たちの理想を貫く。しかしもちろん現実的な妥協もするという。本来それは日本の知恵であるにもかかわらず忘れられているわけで、民主党にはそこを取り戻してほしいですね」（茂木健一郎氏談）